
介護保険施設における PDCAサイクル定着に 向けて

科学的介護情報システム（LIFE）の
効果的な活用

宮城県ケアマネジャー協会
研修委員会 施設部会

PDCAサイクル



①Plan（計画）

アセスメントをもとに、長期・短期目標を設定し、サービス内容を計画

②Do（実行）

計画に基づいて介護サービスを提供

③Check（評価）

モニタリングを通じてサービスの効果や利用者の状態を評価

④Act（改善）

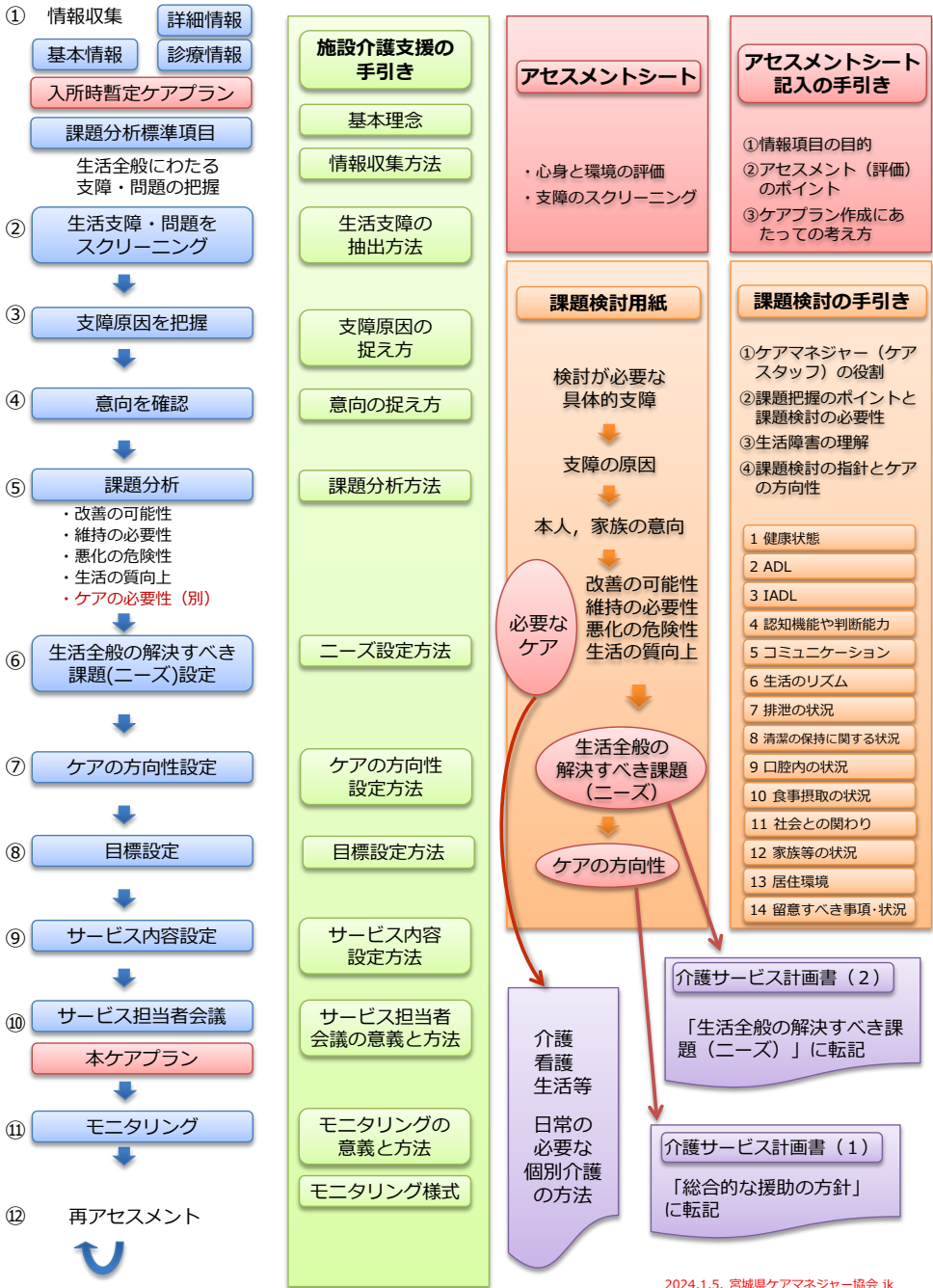
評価結果をもとにケアプランを見直し、必要に応じて修正

施設介護支援

介護支援の手引きを参照



施設ケアマネジメントの過程（考え方の指針と様式）



科学的介護情報システム（LIFE）の目的

介護の質を向上させるために、根拠に基づいたケアを実現すること

I) 介護の質の向上

II) PDCAサイクルの推進

III) エビデンスに基づく介護の実践

IV) 職員間の情報共有と意識統一

科学的介護情報システム（LIFE）の活用①

体制の構築や役割分担

I) 管理者が中心となり、LIFE担当者と多職種のチームを編成

職種ごとに、担当分野についてのアセスメント（課題分析）をおこなう

II) データ入力、提出、レポート分析の担当を明確化

III) PDCA活用法などの研修の実施

IV) フィードバックを活用し、体制や業務フローの改善

課題分析（アセスメント）に関する項目 令和5年10月16日改正

	標準項目名	項目の主な内容	(例)
1	健康状態	健康状態及び心身の状況	身長、体重、BMI、血圧、既往歴、主傷病、症状、痛みの有無、褥そうの有無等
		受診に関する状況	かかりつけ医・かかりつけ歯科医の有無、その他の受診先、受診頻度、受診法、受診時の同行者の有無等
		服薬に関する状況	かかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師の有無、処方薬の有無、服薬している薬の種類、服薬の実施状況等
		自身の健康に対する理解や意識の状況	
2	ADL	ADL	寝返り、起きあがり、座位保持、立位保持、立ち上がり、移乗、移動方法（杖や車椅子の利用有無等を含む）、歩行、階段昇降、食事、整容、更衣、入浴、トイレ動作等
3	IADL	IADL	調理、掃除、洗濯、買物、服薬管理、金銭管理、電話、交通機関の利用、車の運転等
4	認知機能や判断能力	日常の意思決定を行うための認知機能の程度	
		判断能力の状況	
		中核症状及び行動・心理症状の状況	症状が見られる頻度や状況、背景になりうる要因等
5	コミュニケーションにおける理解と表出の状況	理解の状況	
		表出の状況	視覚、聴覚等の能力、言語・非言語における意思疎通
		機器・方法等	対面以外のコミュニケーションツール（電話、PC、スマートフォン）
6	生活リズム	1日及び1週間の生活リズム・過ごし方、日常的な活動の程度	活動の内容・時間、活動量等
		休息・睡眠の状況	リズム、睡眠の状況（中途覚醒、昼夜逆転等）
7	排泄の状況	排泄の場所・方法	
		尿・便意の有無	
		失禁の状況等	
		後始末の状況	
		排泄リズム	日中・夜間の頻度、タイミング等
		排泄内容	便秘や下痢の有無等

8	清潔の保持に関する状況	入浴や整容の状況	
		皮膚や爪の状況	皮膚や爪の清潔状況、皮膚や爪の異常の有無等
		寝具や衣類の状況	汚れの有無、交換頻度等
9	口腔内の状況	歯の状態	歯の本数、欠損している歯の有無等
		義歯の状況	義歯の有無、汚れ・破損の有無等)
		かみ合わせの状態	
		口腔内の状態	歯の汚れ、舌苔・口臭の有無、口腔乾燥の程度、腫れ・出血の有無等
		口腔ケアの状況	
10	食事摂取の状況	食事摂取の状況	食形態、食事回数、食事の内容、食事量、栄養状態、水分量、食事の準備をする人等
		摂食嚥下機能の状態	食形態、食事回数、食事の内容、食事量、栄養状態、水分量、食事の準備をする人等
		必要な食事の量	栄養、水分量等
		食事制限の有無	
11	社会との関わり	家族等との関わり	家庭内での役割、家族等との関わりの状況（同居でない家族等との関わりを含む）等
		地域との関わり	参加意欲、現在の役割、参加している活動の内容等
		仕事との関わり	
12	家族等の状況	本人の日常生活あるいは意思決定に関わる家族等の状況	本人との関係、居住状況、年代、仕事の有無、情報共有方法等
		家族等による支援への参加状況	参加意思、現在の負担感、支援への参加による生活の課題等
		家族等について特に配慮すべき事項	
13	居住環境	日常生活を行う環境	浴室、トイレ、食事をとる場所、生活動線等
		居住環境においてリスクになりうる状況	危険個所の有無、整理や清掃の状況、室温の保持、こうした環境を維持するための機器等
		自宅周辺の環境やその利便性等について	
14	その他留意すべき事項・状況	特に留意すべき状況	虐待、経済的困窮、身寄りのない方、外国人の方、医療依存度が高い状況、看取り等
		その他生活に何らかの影響を及ぼす事項	

(例えば) 転倒原因の評価

病気や障害

- ・パーキンソン症候群、多発性脳梗塞などの疾病、筋力の低下
- ・起立性・食後性・薬剤誘発性の低血圧症
- ・骨の痛みや変形、下肢の左右の長さが異なる、骨折や関節炎などの整形外科の病気による重心のずれ
- ・視覚、内耳、平衡感覚の障害
- ・判断力の低下を伴う、うつ、せん妄、認知症

薬剤や環境

- ・低血圧症、錐体外路症状、注意力が低下する鎮静薬、神経弛緩薬、抗うつ薬、心血管系の薬剤
- ・飲酒による酩酊状態、アルコールの摂りすぎによる末梢神経などの障害
- ・照明の明るさ、敷物やカーペットの固定具合・素材、階段・床の材料、段差の有無

科学的介護情報システム（LIFE）の活用②

役割の責任の内容

I) 管理者：全体の統括

II) LIFE担当者

システムの操作・運用管理、データ提出スケジュールの管理、多職種との連携調整、フィードバックレポートの分析と報告

III) 介護・看護・リハ・栄養等

利用者情報の記録・更新、LIFE提出様式に基づくデータ入力、ケア内容の見直し、改善の提案

IV) ケアマネジャー

ケアプランの作成・見直しにLIFEデータを活用、他職種との情報共有と調整、利用者の状態に応じた対応

科学的介護情報システム（LIFE）の活用③

フィードバックの種類

事業所フィードバック

- 自施設の傾向を把握（例：ADL低下率、栄養状態等）、他施設との比較で自施設の強みや弱みを分析

利用者フィードバック

- 個別の状態変化を時系列で確認
 - ケアプラン見直しや家族説明に活用
-

LIFEの活用実践事例①

認知症高齢者の生活自立支援

課題 ○認知症の進行により、生活全般の自立度が低下

対応 ○LIFEのフィードバックをもとに、生活課題を「排泄」「移動」「食事」に絞って支援経過を再構築
○多職種カンファレンスで支援方針を共有

成果 ○生活課題の排泄の自立度が向上し、夜間のトイレ誘導が不要になった
○利用者のQOLが改善

LIFEの活用実践事例②

ADL維持加算の取得とケア改善（通所リハ）

課題 ○利用者のADL（基本的日常生活動作）の低下

対応 ○LIFEのADLデータを定期的に提出し、フィードバックを分析
○個別機能訓練計画を見直し、短期集中リハビリを導入

成果 ○利用者の歩行能力や移動動作が改善
○ADL維持加算（Ⅱ）の取得

LIFEを活用することの意義

個別ケアの質向上と施設全体の質向上



科学的介護情報システム（LIFE）の活用④

フィードバックの活用

I) 利用者の状態変化を客観的に把握

II) ケアの質を継続的に改善

個別のケアの質向上
施設全体のケアの質向上

III) 職員間の情報共有と意識統一
